

彙報（二〇二二年度）

† 学生関係

† 教員関係

二〇二二年四月
第五期として四十九名入学。

二〇二二年度新規兼任講師（哲学専攻設置科目）

木下頌子兼任講師（担当科目「ジェンダーの哲学」）

高江可奈子兼任講師（担当科目「環境の哲学」）

辻麻衣子兼任講師（担当科目「戦争論・平和論」）

蜂尾公也兼任講師（担当科目「歴史と哲学」）

堀越耀介兼任講師（担当科目「哲学プラクティスⅡB」）

矢口直英兼任講師（担当科目「哲学交流論」）

二〇二二年九月
二名卒業

二〇二三年三月
四十六名卒業

† 卒業論文題目一覧

二〇二二年五月
李穌書兼任講師退職

二〇二二年九月
渡辺和典兼任講師退職

二〇二三年三月
垣内景子兼任講師退職

- ・ ガザリーの哲学批判とイスラム哲学ーイスラム教がギリシア哲学を必要としたのはなぜかー
- ・ なぜスーフィーは修行を必要とするのかー心身変容と集団性に着目してー
- ・ 井筒俊彦の呪術的世界観について
- ・ イスラームと日本の死生観についてー信仰との関係性ー
- ・ 徳の実現はいかにして拡大し得るかーショーペンハウアー

『意志と表象としての世界』における同情倫理学と性格論の考察―

・なぜひとは自殺に対し否定的な感情を抱くのか―ショーペンハウアー『意志と表象としての世界』『自殺について』に基づく検討―

・日常性における他者はいかなる存在か―ハイデガー『存在と時間』共存の考察をもとに―

・日常的な現存在の在り方とは何だろうか―『存在と時間』における世人の考察―

・良心の語りは何故秘密なのか―ハイデガー『存在と時間』良心の呼び声にかかわって―

・「動物は世界貧乏的である」というテーゼに正当性はあるのか―『形而上学の根本諸概念 世界―有限性―孤独』第四五―六三節におけるハイデガーの動物論の検討

・『存在と時間』における遺族と故人の関係はどのようなのか―ハイデガー『存在と時間』第四十七節における記述の検討―

・なぜ「死亡すること」は代理不可能なのか―ハイデガー『存在と時間』における「手段」「目的」の連関から―

・死は本来どのようなものか―ハイデガー『存在と時間』における「死」の議論を基に―

・人間にとつての本来的な死への態度とはどのような態度なのか―『存在と時間』における死という現象の性格とそ

れに対する和辻哲郎の反論を起点に―

・空間とは何か―「建てること、住むこと、考えること」を中心とした空間論―

・「責めある存在」に基礎付けられた責任とはどういうことか―ハイデガー『存在と時間』58節を中心として―

・トランスフォビクな主張に正当性はあるのか―ジュディ・ス・バトラー『ジェンダー・トラブル』を介したセックスの性質の考察

・哲学プラクティスにおいて「きく」ことはどのように位置づけられるのか―「きく」と他者についての関係―

・子どものための哲学は日本の学校教育でどのように実践できるのか―M・リップマン及びT・ジャクソンの子どものための哲学の考察―

・ニーチェの超人思想における自然と孤独への向き合い方に関する考察―H・D・ソロー『森の生活(ウォールデン)』に見る超人の姿―

・ベルクソンの『笑い』における苦味とは何か

・サルトルによる「人間(L'homme)」という言葉についての考察―大江健三郎による《物》という概念を手掛かりに―

・「あう」とはどういうことか―鷺田清一の〈顔〉と「顔面」に基づいて―

・我々が感じ取るリズムの仕組みはどのようなものか

- ・最小結婚は日本の結婚をどのように問い直せるか
- ・女性解放の歴史から見るこれからの男女「共存」の在り方
― ファッションとジェンダーを重ね合わせて―
- ・新井英樹『キーチー！』から読む孤独な生き方― 哲学教育
における漫画の可能性について―
- ・第三者は赦しにおいて必要な存在か― SNS上における第
三者としての関わり方―
- ・人工妊娠中絶の擁護論
- ・AIとその責任の所在― AIの構造に基づく倫理的判断の
可不可及びAIと人類の共存について―
- ・トマス・アクィナスにおける自然法はどのように導かれる
か― 『神学大全』第2部 第90・94問題―
- ・ホッブズの目指した平和とはどのような状態か― ホッブズ
『リヴァイアサン』の分析を通して―
- ・ホッブズの考える国家理論の主権者としての君主は本当に
国民の生命の安全を保障することができるのか― リヴァ
イアサンの君主制と主権者―
- ・トマス・ホッブズ『リヴァイアサン』における自然法はい
かなる意味で神の命令なのか― 15章の分析を通して―
- ・観念の関係に関する推論に対してヒュームが与えた説明は
整合性を有するのか― 『人間本性論』第一巻第四部第
一節―
- ・「理性は情念の奴隷」という表現は適切か― ヒューム『人

- ・問本性論』第二巻第三部第三節―
- ・ルソーにおいて良心に従うことが神に従うことになるのは
なぜか― 『エミール』「サヴォワの助任司祭の信仰告白」
―
- ・カント『永遠平和のために』にて永遠平和を保証する自然
とはなにか― 第一補説「永遠平和を保証する自然につい
て」
- ・キェルケゴールの『死に至る病』において絶望が人を死に
至らすとされているのはなぜか― 「第一編 A 絶望が死に
至る病であるということ」より―
- ・感覚日記の議論が私的言語論の核心をなすと言えるのはな
ぜか― ウイトゲンシュタイン『哲学探究』 §258の「一解釈
―
- ・ウイトゲンシュタイン『哲学探究』において「霧は晴れる」
とはどのような状態か― 第1章(a)アウグスティヌス
的言語像―
- ・翻訳における論理学の特権的扱いは全面的改訂可能性の主
張と矛盾するのか― クワイン『論理学の哲学』第6章「非
正統的論理学」―
- ・井上円了の学問観と妖怪学
- ・夏目漱石の老子研究について
- ・西田幾多郎のデカルト理解から見る西田哲学の変遷
- ・柳田国男における日本人の靈魂観

・日本文化と偶然性―九鬼周造の日本文化論―

(順不同 卒業論文提出者数と卒業生数は一致しない)

† シンポジウム・講演会など

二〇二三年三月二十三日

シンポジウム「科学と神秘」

登壇者・胡穎芝氏・合田正人・竹花洋佑氏・井上貴恵

明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモンA2・3会議室